

## 通常の季節性インフルエンザワクチンが H5N1 鳥インフルエンザに効果を持つ可能性 2006/10/2

### Possible defense against birdflu? San Francisco Chronicle, (米国) 通常のインフルエンザワクチンが鳥フルに効果を持つ可能性

本日のワシントンポストでも報道済みの研究報告。

マウスの実験で H1N1 ウイルス抗原を含むインフルエンザワクチンを接種し、その後致死性の H5N1 ウイルスを接種したところ、半数のマウスが生き残った(通常全例死ぬ)。この事実から下記仮説が提唱された。米国の有名なウエブスター博士の発表。発病率に差はないが、死亡率が半数に。

通常のインフルエンザワクチン内に含まれる N1 蛋白と H5N1 ウイルスの N1 蛋白で共通の蛋白があることから、通常のインフルエンザワクチンを投与した場合、N1 蛋白に対する抗体が産生され、それが H5N1 ウイルスが体内で増殖するのを、ある程度抑制する効果を持つ。通常のインフルエンザワクチン内の N1 蛋白は、H1N1 ウイルス株(ソ連風邪)由来。

臨床の間では予防効果を期待するから、感染率には差が出ないことは、医師達を満足させないという批判に対し、ウエブスター博士は、”感染することと死亡することは全く異なる。(死亡率が下がることは極めて重要)”とのコメント。

N1 蛋白はウイルスが細胞外に放出される時に必要。

### Regular Flu Shot May Help Fight BirdFlu Washington Post, United States (米国) 通常のインフルエンザワクチン接種は、鳥フルに対してもある程度有効

世界の指導的インフルエンザ専門家が、小規模ではあるがマウスの実験で、通常の季節性インフルエンザワクチンが、鳥フルがパンデミックになった際にも、効果を発揮する可能性を示唆する、期待出来る結果が得られた、語っている。

通常のインフルエンザワクチンを投与されたマウスの半数が、鳥フルウイルスを接種された後、半数が生き残ったことが、一回目の実験で明らかになった、とロバート・ウエブスター博士(聖ユダ小児研究病院のウイルス学者)が、感染症会議で語った。

この実験結果は通常のインフルエンザワクチン接種の付加的利点を支持するが、鳥フル予防に対する過剰の期待には注意を要する、と研究者達は語っている。

”我々は多くの人におけるデータを必要とす

る、”とフェデリック・ハイデン博士(バージニア大学のウイルス学者で、WHOの特別顧問)は、事実を人で確かめるまで、ワクチンのそのような効果に関しては明確なことは言えないと説明する。

10数匹のマウスを用いた実験は、ウエブスターの共同研究者であるリチャード・ウエビーにより行われた。

通常のインフルエンザワクチンには、致死性の H5N1 ウイルスが持つのと同じ N 成分を含んでいる(ニューラミニダーゼ:ウイルスが細胞内で増殖後、細胞外へ放出される時に必要な酵素。株によってその構造は異なるが、構成蛋白には共通部分がある:記者)。多くの人々は季節性のインフルエンザにこの数十年来感染し続けている。科学者の中には、そうした理由で(ウイルス間で共通する N 蛋白に対する抗体を持っている故)多くの人が鳥フルから生き残れる可能性があると考えている人もいるが、もう一つのリセプターである H 基(ウイルスがヒトの細胞上皮内に吸着して、細胞内へ侵入する際に必要な蛋白質)が非常に異なっているため、感染予防に対する効果は期待できない。

マウスでの実験結果は、通常のインフルエンザワクチンは H5N1 ウイルスに対して、”基本的交差予防効果(basic cross-protection)があることを示唆している、とウエブスター博士は語り、各国が鳥フルがパンデミックになった際のために、通常の季節性インフルエンザワクチンを備蓄しておくことは、意味のあることだとも説明している。

また定期的インフルエンザ接種を受けることの意義として、ナッシュビルのバンデルビルト大学のワクチン研究者であるカシー・エドワーズ博士は次のように語っている。

毎年インフルエンザワクチン接種を受けることは、複数以上のウイルス株に感染するリスクを減じているという意味で、意義のあることだと考えられる。

さらに同博士は、季節性インフルエンザと致死性の鳥インフルエンザの2種類のウイルスに感染し、豚で見られるように、それらウイルスの遺伝子再集合が発生することを防ぐ役割もあると語る。